

# 特集

## ～第80回建設業講演会を開催しました～

2023年11月7日、北海道経済センター（札幌市中央区北1西2）8階Aホールにおいて、国土交通省大臣官房審議官（不動産・建設経済局担当）楠田幹人氏をお迎えし、「最近の建設業をめぐる諸問題」をテーマとした講演会を開催しました。

皆様のおかげをもちまして、講演会は無事終了することができました。改めまして、ご来場の皆様には深く感謝申し上げます。

講演会当日の弊社社長の和泉からの主催者挨拶と講演会配付資料を一部編集して、以下のとおり掲載しますのでご参考としていただければ幸いです。

### 【第80回建設業講演会概要】

○日 時：2023年11月7日（火） 14:30 ～16:00

○場 所：北海道経済センター8階Aホール

○プログラム：

開会 主催者挨拶

講演『最近の建設業をめぐる諸問題』

講 師 楠田 幹人 氏

○主 催：北海道建設業信用保証株式会社

後 援：北海道開発局

北海道

一般社団法人 北海道建設業協会

一般社団法人 北海道舗装事業協会



[【主催者挨拶文（PDFファイル 128KB）】](#)

[【講演会配布資料（PDFファイル 11,272KB）】](#)

※ 掲載資料は閲覧のみとし、転用はお控えいただきますようお願いします。



# ～Instagram でみる道内助成事業～

北海道建設業信用保証㈱は、職員有志で運営するInstagramアカウント「HCSインスタ部 (@hcs.instaclub)」にて、弊社の担い手確保助成事業のひとつである「現場見学会」「コンストラクション甲子園」の様子を取り上げました。

## 【令和5年度日新団地市営住宅2号棟（3F24戸）新築主体工事】 （菱中・遠藤・門田特定建設工事共同企業体）



10月19日、苫小牧にて開催されました。対象は、北海道立苫小牧工業高等学校建築科の1年生40名です。高校生の皆さんには、工事の概要説明や進捗等についての話を聞いていただいた後（写真中央）、実際に現場を見学していただきました（写真左・右）。

## 【コンストラクション甲子園、予選・決勝】



10月14日、全道7地区にてコンストラクション甲子園予選大会が開催されました。どの会場も白熱し、大いに盛り上がりを見せていました。写真左は、空知地区予選の参加者並びに関係者の皆様です。

12月9日に札幌で開催されたコンストラクション甲子園決勝大会（写真右）の様子につきましては、下記左「@hcs.instaclub」右「@construction\_koshien」より、詳細にお届けしておりますので、お見逃しなく。

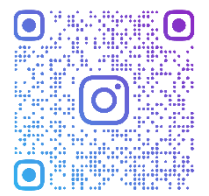


@HCS.INSTA CLUB

URL : <https://www.instagram.com/hcs.instaclub/>

左右のQRコードを読み込んでいただくと、  
お手持ちのスマートフォン・タブレットで詳しくご覧いただけます。

フォロー・いいね・コメントお待ちしております！



CONSTRUCTION\_KOSHIEEN

# 建設関連ニュース

## ●「道内建設業（保証契約者）の財務比率」を公表（北保証）

北海道建設業信用保証株は、2023年3月までの1年間の決算を対象に道内建設企業の財務数値を分類集計した「道内建設業（保証契約者）の財務比率」をとりまとめた。資材価格高騰や賃上げ基調などが影響している比率項目はあるが、コロナ禍の状況下にあっても順調な経営がなされており、2021年度に続いて高い健全性を示しているとした。財務比率22項目中10項目が過去5年間における最高値を示しており、とりわけ健全性に係る9項目のうち6項目が最高値となっている。

## ●23年度上半期振り返り定常的事業量の確保重要（北保証）

10月17日、北海道建設業信用保証株は、保証事業から見た2023年度上半期公共事業の動向を振り返った。上半期の前払金保証請負金額は、北海道新幹線の工事発注が押し上げ前年同期比15.2%増となったが「楽観視はできない。国土強靱化など定常的な事業量確保が業界にとって重要」とし、今後の見通しでは「国土強靱化実施中期計画が法定化され、政府の動きが予算としてどう反映されるかが業界としても非常に大きいと思う。動向を注視している。」と説明した。

## ●23年度補正予算案（政府）

政府が11月20日、臨時国会に提出した2023年度補正予算案のうち、北海道開発事業費は事業費ベースで前年度第2次補正比8.2%増の2429億7800万円に上った。直轄は12.4%増の865億9000万円、補助は6%増の1563億8800万円という内訳。ゼロ国債は381億4600万円を設定し、直轄312億8100万円、補助68億6500万円とした。国費ベースでは9.1%増の1649億5700万円。直轄、補助ともに前年度第2次補正を上回った。

## ●24年度当初予算案（国交省）

政府の2024年度当初予算案のうち国土交通省関係分が判明した。国費ベースで道路整備は1兆6715億円、治水は8522億円、港湾は2449億円と、いずれも前年度と同等程度で調整。防災・安全交付金は2%増の87億700万円、社会資本整備総合交付金は8%減の50億6500万円となっている。24年度予算は、国民の安全・安心の確保、持続的な経済成長の実現、個性を生かした地域づくりと分散型国づくりの3点を柱に設定。23年度補正予算と合わせて切れ目なく取組を進め、施策効果の早期発現を目指す。

## ●CCUS 就業履歴蓄積で環境整備（建設業振興基金）

10月16日、あらゆる現場で建設キャリアアップシステム（CCUS）の就業履歴を蓄積できるようにするため、建設業振興基金が準備してきたツール「カードリーダーのロギング機能追加」「安価なカードリーダー」に続き「カードリーダーなしで就業履歴を記録」するツールが本格始動する。三つのツール展開により、就業履歴が蓄積しにくいとされてきた小規模現場へのCCUS普及を目指す。

## ●自治体工事でCCUSの導入拡大（国交省）

建設キャリアアップシステム（CCUS）の導入や活用に積極的な元請企業を評価する動きが、地方自治体で着実に広がってきている。国土交通省がまとめた最新の調査結果（8月21日時点）によると、都道府県で地元建設業協会の同意が前提になる同省直轄Cランク工事でのCCUS活用モデル工事を実施済みまたは予定しているのは、青森、山形を除いた45都道府県にのぼる。都道府県や市区町村が発注する工事でも同様の動きは増えている。

## ●建築BIM加速化事業、24年度も当初予算で継続（国交省）

国土交通省は2022年度第2次補正予算で創設した「建築BIM加速化事業」を、24年度も当初予算で継続して取り組む。一定の要件を満たす建築物の新築プロジェクトを対象に、設計BIMモデルや施工BIMモデルの作成にかかる費用を幅広く補助する。プロジェクトの設計や施工を直接請け負う元請の意匠設計事務所やゼネコンだけでなく、下請の専門設計事務所や専門工事会社も補助対象とする。24年度予算概算要求に必要な経費として80億円を新規計上した。

当社がSNSを活用した建設業の魅力発信の取組を開始して、ほぼ1年が経過しました。フォロワー数も400近くなり一定の閲覧数に落ち着いています。HCSインスタ部は、立ち上げ時に大変ご貢献頂いたK山さんが10月に異動となり、その後を本年採用のMさんが引継ぎ、これまた味わい深い投稿を続けています。最近「コンストラクション甲子園」の情報発信など、インスタ部員は情報のあるところに出かけ取材・発信を行っており、取組の創意工夫にあれこれ知恵を巡らせているところです。

ところで、先日、Mさんの投稿「苫小牧工業高校建築現場見学会」が、当社SNS単独で初めて「いいね」100超えを達成しました。実は、SNSをスタートさせた時からですが、現場見学会の投稿は、イベントや各種取組の紹介の投稿などと比べて2～3割「いいね」が多く得られる傾向があり、時に、学習塾関係者であったり就職仲介企業など、他の投稿とは異なる方々も閲覧してくれたりします。

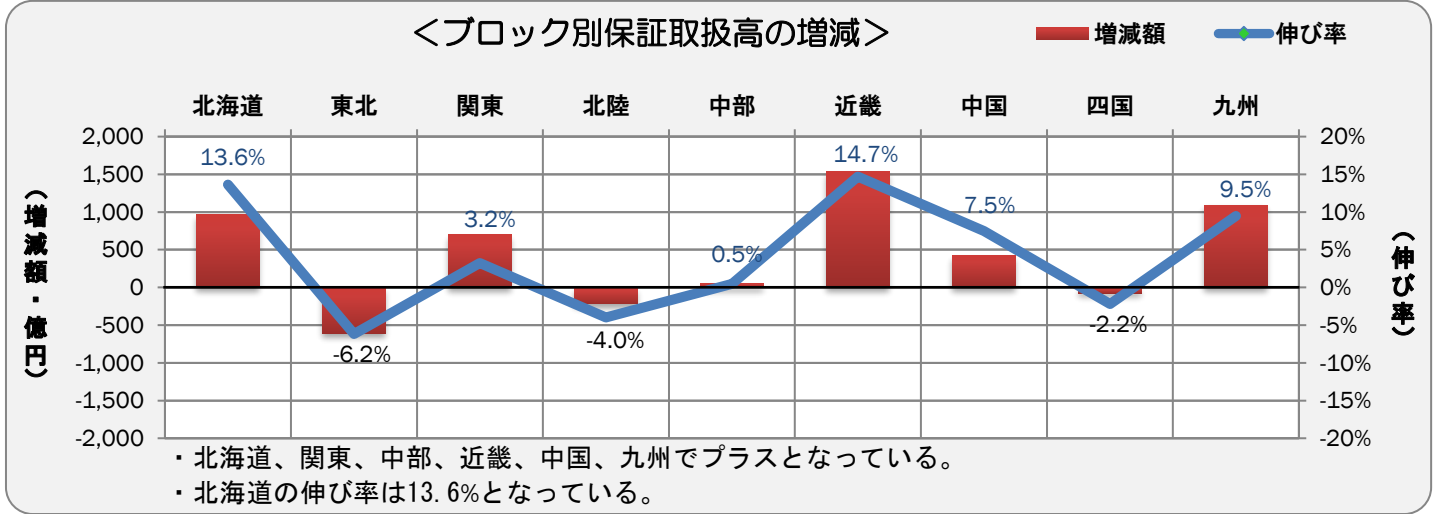
HCSインスタ部では、今年から道建協さんと連携して現場見学会の取材を行っていますが、見学会は、若い世代の方々に向けた建設業の魅力発信の一番の基本ではと確信を持ち始めています。新しい年に向けて、一層新鮮な情報を多くの皆さんと協力して発信していきたいと思います。（H. S）



# 一目でわかる建設業データ

## 数字でみる公共工事

### ◇ブロック別保証取扱高（請負金額、2023年4月～2023年9月累計）



### ○請負金額9月累計額（3保証事業会社調べ）

（金額単位：百万円）

	請負金額	構成比	前年同期比較	
			増減額	伸び率
北海道	802,586	8.9%	96,368	13.6%
東北	931,838	10.3%	-61,333	-6.2%
関東	2,247,246	24.8%	70,695	3.2%
北陸	521,430	5.8%	-21,648	-4.0%
中部	1,143,457	12.6%	5,632	0.5%
近畿	1,204,686	13.3%	154,372	14.7%
中国	602,632	6.7%	41,868	7.5%
四国	331,187	3.7%	-7,443	-2.2%
九州	1,261,328	13.9%	109,325	9.5%
全国	9,046,395	100.0%	387,837	4.5%

## 北海道の建設業景況調査（2023年度第2回・7月～9月）

### ◇調査の概要

#### ＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

#### ＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

2023年度第2回の回答企業数は237社（調査対象253社、有効回答率93.7%）です。

業種別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土木	116	3億円未満	31
建築	22	10億円未満	64
土木・建築	69	30億円未満	99
設備	30	30億円以上	43
合計	237	合計	237

#### ＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ビジネス・サーベイ・インデックス＝景況判断指数）です。

#### ＜B.S.I.の求め方＞

景況調査の集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

$$B.S.I. = ([\text{良い} \cdot \text{やや良い}] \text{と回答した企業割合} - [\text{悪い} \cdot \text{やや悪い}] \text{と回答した企業割合}) \times 1/2$$



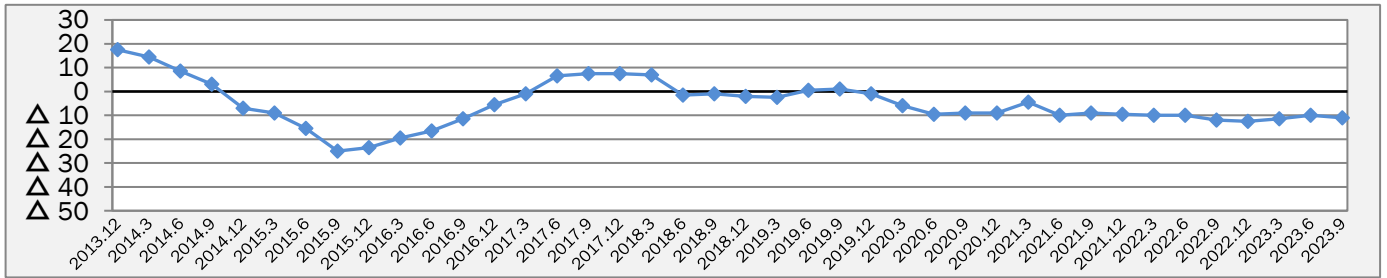
# 概観

[前期]-2023年4月～6月、[今期]-2023年7月～9月、[来期]-2023年10月～12月(見通し)

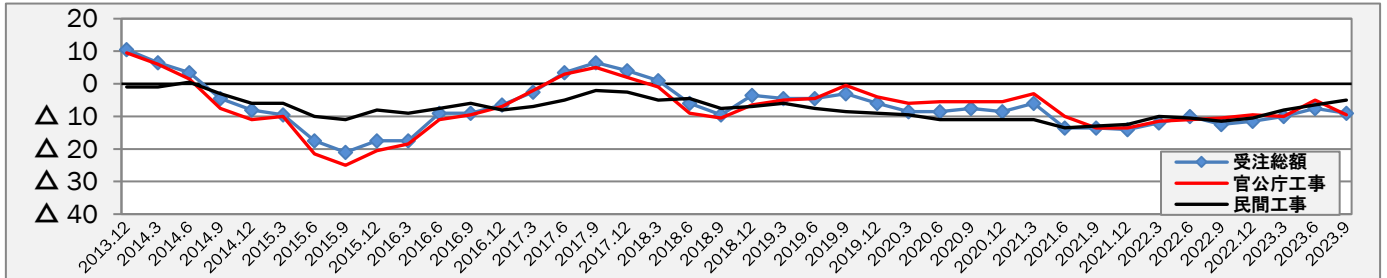
項目 (※印は季節調整項目を示す。)	B.S.I.値の傾向	前期 B.S.I.値	今期 傾向と推移 (前期に比べた今期の状況)	B.S.I.値	来期 傾向と推移 (今期に比べた来期の状況)	B.S.I.値		
	プラスの傾向 マイナスの傾向							
(1)業況等 地元建設業界の景気※	良 悪	いい 悪い	△ 10.0	悪い傾向が続いている	△ 11.0	悪い傾向が続く見通し	△ 13.0	
(2)受注 受注総額※	増 減	増加 減少	△ 7.5	減少傾向が続いている	△ 9.0	減少傾向が続く見通し	△ 10.0	
	官公庁工事※	増 減	増加 減少	△ 5.0	減少傾向がやや強まっている	△ 9.5	減少傾向が続く見通し	△ 10.5
	民間工事※	増 減	増加 減少	△ 6.5	減少傾向が続いている	△ 5.0	減少傾向がやや強まる見通し	△ 8.5
(3)資金繰り※	容 厳	容易 厳しい	3.5	容易傾向が続いている	2.5	厳しい傾向に転じる見通し	△ 1.0	
(4)金融 銀行等貸出傾向	容 厳	容易 厳しい	7.0	容易傾向が続いている	8.0	容易傾向が続く見通し	6.0	
	短期借入金※	増 減	増加 減少	△ 0.5	増加傾向と減少傾向が均衡を保っている	0.0	減少傾向に戻る見通し	△ 1.0
	短期借入金金利	上 下	上昇 下降	0.0	上昇傾向に転じている	1.0	上昇傾向が続く見通し	1.5
(5)資材 資材の調達※	容 困	容易 困難	△ 12.0	困難傾向がやや弱まっている	△ 8.0	困難傾向が続く見通し	△ 10.0	
	資材価格	上 下	上昇 下降	35.5	上昇傾向が続いている	35.0	上昇傾向がやや弱まる見通し	32.5
(6)労務 建設労働者の確保※	容 困	容易 困難	△ 26.0	困難傾向が続いている	△ 25.5	困難傾向がやや強まる見通し	△ 28.5	
	建設労働者の賃金	上 下	上昇 下降	34.0	上昇傾向がやや弱まっている	29.5	上昇傾向が続く見通し	29.0
(7)収益※	増 減	増加 減少	△ 11.5	減少傾向が続いている	△ 11.0	減少傾向がやや強まる見通し	△ 15.5	

## ◇B.S.I. (ビジネス・サーバインデックス=景況判断指数) の推移

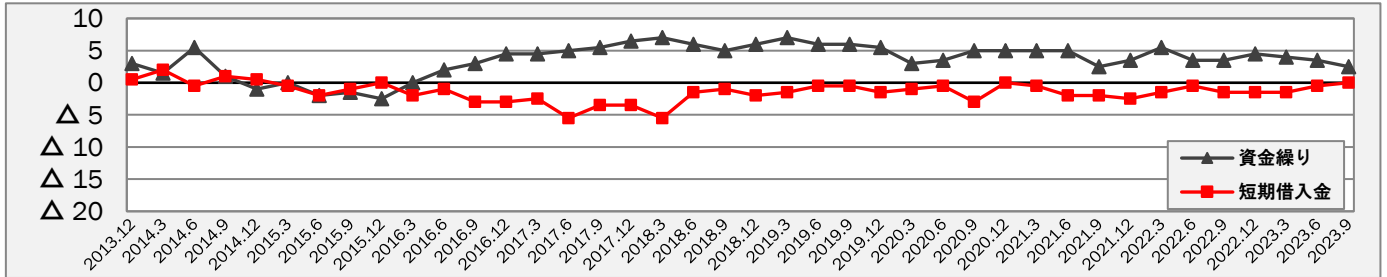
○地元建設業界の景気 (B. S. I. 季節調整済)



○受注 (B. S. I. 季節調整済)



○資金繰り・短期借入金 (B. S. I. 季節調整済)



○収益 (B. S. I. 季節調整済)

